

住吉鉄道（住鉄）大社駅（住吉大社の前にある）。終電が近いので、人気無く寂しい。

女 2013年七夕。銀河鉄道は住鉄大社駅から、発車しました。

車掌 女性は、運転席の目の前に、座りました。お客様の顔を覚えるのも、私たちの仕事の一つなのです。銀河ステーション行き、発車いたします。

女 一瞬の暗闇のあと、住吉さんからのたくさんの光が、線路を照らしました。窓から外を見ると、乗り遅れた人たちが飛び込んできて……

車掌 お客様にお願い申し上げます。駆け込み乗車は大変危険です。他のお客様にご迷惑となりますのでおやめください。次は、白鳥停車場、白鳥停車場でございます。終点銀河ステーションには、零時五十分に到着いたします。

女 帝塚山の坂の近くで、手旗信号の男が立っていました。よく見ると、空の果てまで、旗は続いていました。一方、その真っ白なレールは、これから起こるかもしれない、嫌なこととも思い起こさせました。

着信音。女、出ようとするが切れてしまう。

車掌 白鳥停車場でございます。お降りの際は、足下にご注意ください。

女 この電車は、天王寺に停まりますか？

車掌 当車両は天王寺には停車いたしません。

女 阿倍野線でしょ？

車掌 当車両は住鉄銀河線でございます。

女 いや、そんな路線ないでしょ。宮沢賢治か。

車掌 お客様、切符を拝見させていただいてよろしいでしょうか。

女、切符を車掌に突っぱねる。

車掌 わし座へは、零時三十分に到着する予定でございます。」

女 どこそれ？

車掌 ここから夏の大三角形方面へ向かった辺りです。

女 遠いじゃん。天王寺に着いてくれないと困るんだけど。

車掌 と言われましたも、もう地球から出てしまっていますので……どちらにせよもう終電なので天王寺にはちよつと……

女 ちよつとどいて！

女、マイクを奪い、本部に連絡をとろうとするが、つながらない。

女 番号は。

車掌 099です。ただ、連絡しても意味はありませんよ。

女 何で？

車掌 この時間の銀河線は、完全自動運転ですので、担当の従業員はみんな帰ってしまっております。

女 は？ 何かあったらどうするの!？

車掌 そこは、我々が何とかするのですよ。住鉄は、世界一働きやすいオフィスを目指しております故、ご了承お願いいたします。

白鳥が羽ばたく音

車掌 本日は七夕でしたね。今頃、織姫も天の川を渡っておられるのでしょうか。

女 ただの駄目女じゃん。男に会いに行くような女とか。

車掌 お客様は、どういった用件で？

女 ……彼氏に会いに。

車掌 彼氏に会いに天王寺まで……駄目女じゃん（笑）

女 うるさい。あんたには関係ないし。

車掌 これは失礼いたしました。

車掌、席に戻る

女 その時、近商ストアのBGMが流れて、一人の男が入ってきました。私は一瞥しましたが、彼は気にも留めずに、隣に座りました。

車掌 お客様、切符を拝見してもよろしいでしょうか。

男、黙って切符を見せる

車掌 月、ですね。次のこうま停留所でお降りください。そこからは川沿いを、歩いて三日です。

男 分かりました。

川の檜林

電車の動く音

女 電車が動いて、白鳥たちが私たちを見送るかのように羽ばたきました。もしかしたら、彼らは亡霊かもしれない、と思いました。何となく、その方が、銀河鉄道の夜らしくないですか？

車掌 銀河ステーション行き、発車いたします

着信音。だが携帯電話は反応しない。しばらくすると、音が切れる。

男 こう考えたらいいんだ。何かに会うために、動いてるって。

女 ……あんた誰？

男 いや何しろここは電車だ。電車は誰かと出会う為に動いてるんだ。例えば、そうだなあ……

車掌 仕事に行くため？

男 そう、それ。あと、友達と遊ぶ為、学校に行く為、恋人といちゃいちゃするため。そして、別れるため。

女 言ってることが違うじゃん。電車は出会う為に走ってるんじゃないの？

男 出会うの後は必ず別れなくちゃならない。電車つてのは、特にチンチン電車は、そういう神聖な行為を手助けする、何ともありがたい乗り物だ。

女 だったら、他の交通機関でもいいじゃん。何でチ……路面電車だけなの

男 そりゃ言ってる。俺は飛行機で死んだんだしな。

女 男は、死ぬまでの過程を語りました。飛行機がビルに突っ込むまでの、とても短い話でした。私には、ものすごくおかしな話に聞こえて、死ぬのつてもものすごくおかしなことなんじゃないかなと、素直に思いました。

男 気がついたら死んでた。あつという間だったから、別に痛くはなかった。

女
ドラマみたい。

男
実際ドラマみたいなものだ。違いなんてほとんどない。

男、鞆から林檎を取り出す

女
一つは幼子の頬のように真っ赤な林檎、もう一つは天の川の星のように鮮やかな青林檎でした。彼は赤い方を私に投げて。

男、織姫に林檎を投げる

男
食えや。

女
仕事は何をやったの？

男
詩を書いた。

女
あたし、そういう男嫌い。粹がってるみたいで。

男
しょうもないベーススト追っかけてる奴に言われたくないな。

女
何で知ってるの！？

男
その髪、服、乳首、指先から、臭いがするんだよ。

女
最近色々あったから、久しぶりに会いに行くの。

男
赤い林檎は、血が通ってるって証拠。けれども、青い林檎だって負けぢやない。血色が良すぎると、傷口がすぐに広がる。

女、林檎をかじる

女
ねえ、アンタはどこに行くの？

男 巡礼に。

女 アンタ、宗教家？

男 詩人って言ってるだろ。

女 あたし、宗教って大嫌い。

男 俺は、敬虔なプロテスタントだが、今回の旅はそっち関係じゃない。

女 じゃあ何よ？

男 ジョー・ストラマーは、ずっとあの星で待っていてくれるんだ。自分を愛した全ての人間を。

車掌 間もなく、こうま停車場です。お降りの際は、足下にご注意ください。

男 ここでおさらばだ、ベイビー

女 最後に男は、訊いてきました。

男 愛に生きるのか、それとも死ぬのか。考えたことがあるか？

女 私は、答えることができませんでした。答えを出すには少し早すぎたのです。

男 俺は答えを待たなかった。車掌さんよ、それでよかったんだよな？

車掌 お客様同士のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。が、それが正解でしょうな。個人だけの問題に身元不明の男がしゃしゃり出るのはよろしくない。

男、手荷物からメモとペンを取り出し、詩を読みながら書き込む

男 朝、シャンパンを楽しんだら、夜は硬い水で満足する。始まりこそ、銀河を走る一番のガソリンで、終わりは、午後の休憩くらいだろう。古い路面電車はしばらく停まらない……

男が電車を降りる

車掌　銀河ステーション行き、発車いたします。次は、わし座²、わし座²。以降は終点銀河ステーションまで、停車いたしません。ケンタウロス方面へ向かわれるお客様は、次の駅にてお乗り換えください。

女、窓を見る

女　　林檎だ……

女、窓の外の林檎に手を伸ばす。

女　　無数の林檎が、星になっていました。けれども、捕まえた林檎は、目には見えません。

車掌　お客様、窓から手を伸ばすのは危険です。スペースデブリが当たれば、たちまち持って行かれます。今夜は特に酷い。あちこちに骨が散らばっています。

女　　何で骨？

車掌　墓石に骨を撒いた奴がいるのですよ。全く、迷惑な話です。

女　　誰？

車掌　シド・ヴィシヤスト、ナンシーでございます。

女　　あたし、西洋人の知り合いとかいないんだけど。

車掌　奴はベーシストでした。

女　　知り合い？

車掌　もう三十年近く前に、乗せたことがあります。恋人のナンシーも一緒に

女　　そいつ、ベースうまいの？

車掌　本人曰く、全然弾けないとのこと。バンドは伝説になってるけど
女　　ふうん、そいつら、有名なの？

車掌　大杉栄と伊藤野枝、ロミオとジュリエット、ジョンとヨーコ、八百屋お七と
同じくらい有名な恋物語ですよ。さき、じき到着です。ご準備を。

女　　意外と近いね。

車掌　時代とともに、銀河線も進化し続けているですよ。

女　　天王寺とあんまり距離変わらないね。

車掌　ただ、こう考えた方がいいかと思えます。近いのではなく、我々が近づくこ
とができるようになったと。

女　　違いがよくわからないんだけど。

車掌　本当は目に見えないほどの距離なのですから。

女　　ふうん。

車掌　綺麗な林檎ですね。

女　　見えるの？

車掌　ええ、見えますとも。ここいらの天の川は、林檎が流れてるんですよ。

女、外の林檎を眺める

車掌　しかしこれはいい林檎だ。

車掌、林檎を女に返す。

銀河鉄道がわし座²に到着する。電車の完全停止音が鳴り、扉が開かれる。織姫、降りようとするが、車掌の方を向く。

女 この切符……どこで手に入れたのか分からないんだけど、いいの？

車掌 切符なんて、いつの間にか持つてるものですよ。気がいたらポケットの中に、なんてこと多々ありますとも。

車掌、運転席に座る。車内の灯りが消える。

女 光が強くなってきて、気がいたら辺り一面が真っ白になりました。

車掌 ベガですな。この辺りには一年で一番近づくのですよ。

女 何か人間と変わらないなあ。

車掌 死んだ人間が星になる、というよりも愛に生きた人間たちが、アルタイル、ベガの塊を形成する一つになると言った方が正しいんでしょうな。シドとナインシーだって、あそこにおります。

女 多分あたしも、あそこで連中とごちゃ混ぜになるんだろうな。

車掌 お客様も愛に生きておられるのですか？

女 うん。まあ、だからちよつときつい。

車掌 同じ話をもう一度してよろしいでしょうか。えー、電車は、誰かに会いに行く為にあるものです。私が言えますのは、よい旅路を。それだけです。

女 ありがとうございます。

車掌 よい旅路を。

着信音

女　　もしもし、今電車なんで……また着いたら連絡します。

灯りが灯る。

住鉄阿倍野線、上本町行き特急電車の中。

女は左手でつり革を持ち、右手で携帯電話を操作している。

車掌は無言で運転をしている。二人とも、銀河鉄道の記憶は無い。

女　　電車の中の人たちが、星のように見えました。皆がきらきらと輝いてる、と

　　いうわけじゃなくて、不安定な人の量が、銀河の星と同じだからでしょう。

　　路面電車は走り続けます。まるで林檎が浮いている乳の川みたいだと、私は
　　思いました。そして、電車は私をきちんと結末まで連れてってくれました。

車掌　天王寺、天王寺でございます。お降りの際は足下にご注意ください。

女、電車を降りる

女　　もしもし、今着きました……MIOの前で待ってください。（電話を切る）

　　ナンシーのように奔放で、織姫のように一途で私はあり続けよう。

完

■作品について

著作　井上　明紀

本作品に関するお問い合わせ、上演等での使用については劇団演陣ホームページ

(<http://www.gekidanenj.in.net/>)に掲載のメールアドレスにご連絡ください。